

スポーツアナウンサー

【高学年 1・2】

- よりよい生き方について、身近な人の教材化を図る -

- (1) 主題名 目標をもって [1・2]
- (2) ねらい より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする心情を養う。
- (3) 資料名 「スポーツアナウンサー」
- (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 野球中継のテープを聞き、感想を言う。	<p>このテープを聞いて、思ったことやわかったことを言いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野球の中継だ。 ・音が大きい。 ・アナウンサーが興奮している。 	得点が入り、盛り上がった場面を流す。
展開	2 資料「スポーツアナウンサー」を聞き、話し合う。	<p>ディレクターに番組を台無しにしたと言われたときの一柳さんの気持ちを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうやめてやる。 ・厳しい世界に入ってしまった。 ・くやしい。努力して力をつけるぞ。 ・どうすればいいんだろう。 	できるだけ様々な気持ちが出るように支援する。
展開	3 主人公の努力の様子について考える。	<p>一柳アナウンサーはどんな思いから様々な努力をしたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このままでは悔しい。 ・上手になり、失敗を取り返したい。 ・多くの人に野球の本当の楽しさを伝えたい。 	<p>休日を使い努力した場面や、一人で練習する場面などがあれば、そのときの気持ちなどを切り返して発問する。</p> <p>より高い目標をもとうとする主人公の姿勢が明示できるように、板書の工夫をする。</p> <p>目標が決まりにくい児童には、身近なことから考えていくようにさせる。</p>
終末	4 自分たちの生活を振り返って話し合う。	<p>今、自分が目標にしていること、努力していること、またそういう人のことを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字を覚えること。 ・マラソンを完走する。 ・さんは、ピアノをがんばっている。 	
終末	5 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も目標をもってがんばりたい。 	子どもたちの励みになるような身近な人が努力したことについて話す。

スポーツアナウンサー

一柳アナウンサーは今から十三年前、大学を出て広島の放送局に入社した。昔から野球が大好きで、野球選手を夢見ていた時期もあったが、自分のことを見つめていくうち、野球の実況のできるアナウンサーになじた」と思つようになつていった。

いざ放送局に入つてみると、会社の先輩たちは話し方、言葉遣い、何をとつてもずいぶん差があつた。先輩たちはアナウンサーの養成学校を出たり大学の放送部で活躍したりした人ばかりだつたからだ。

入社一年目、春の甲子園で広島の高校が全国優勝したときのことである。一柳アナウンサーに一つの生中継の仕事が任された。甲子園から帰るバスの中の中継だ。番組の中での高校のみんなが喜んでいる様子を伝えるのである。

何とか生中継の仕事を終え、会社に帰つた一柳アナウンサーを待つていたのは、番組のディレクターのきつい一言だつた。

「おまえはある番組を台無しにした。どうしてくれるんだ！」

今にも殴りかかってきそうな剣幕だ。何のことがぴんとこない一柳アナウンサーに、ディレクターはさらに続ける。

「いいか。三十分の番組で二十九分五十秒うまくしゃべつたとしても残りの十秒だめなどこうがあつたらその番組はめちゃくちゃになるんだ。」

中継の中で何気なく使つたことばが見ている人を傷つけてしまつたのだ。

一柳アナウンサーはその日、会社のデスクに伏して一晩、悔し涙を流した。

しかし、いつまでも泣いているわけにはいかない。とにかくその場の状況をきちんと伝える力をつけていくしかない。野球の実況をしたいという目標をかなえるためにも。

そこで、まず、休みの日に市民球場や県営球場で行われていた社会人野球を見に行き、その場で実況の練習をした。

「ピッチャー振りかぶつて、第一球を投げました。打ちました。サーブゴロ、サーブがつ

ちりとつて一塁へ、アウト・ワンナウト、ランナーありません。」

誰もいないグラウンドで一人しゃべり続けた。ルールでよくわからないところがあつたら、審判の人に聞きに行つた。

いつして入社四年目の九月十一日、広島対ヤクルト戦の「ゲーム」で、はじめての実況中継をすることことができた。でもまだまだ十分なものではなく、やつと見たことをそのまま伝えられるようになつたところだつた。

野球の実況中継をするという目標は果たした。しかし、聞いている人に楽しいと思つてもらえる実況はできていない。（これからは「楽しい実況をする」「野球の楽しさをみんなに伝える」という目標をもつてがんばる。）一柳アナウンサーは考えた。そのためには、野球を知り、選手のことをよく知つて、そのことを伝えなくてはならない。この選手は前の試合でどうだつたか、今シーズンのこれまでの成績は、弱いところ強いところ……ここでどんな作戦が考えられるのか。また、太陽が沈む頃の球場の様子をどう伝えていくか、雨が降ってきたときは、雨のようすをどう伝えていくか、勉強することはいっぱいあつた。

選手のデータをたくさん集め、分析した。そして、試合前にはデータを実況ノートに書き出し、どんなことを話そつか考へながら覚えていった。また、一つのことがらをいろんな言葉で話せるようになるよう語彙を増やしていく勉強をした。

苦しいときも、「楽しい実況をする」という目標を強く持ち、自分を信じて前向きに努力を重ねていつた。そのうち、少しずつ楽しい実況ができるようになり、自信も出てきた。

今でも、シーズンオフには高校野球のビデオを見て、他局のアナウンサーがどうしゃべるか比べながら練習している。

—柳信行アナウンサー



RCC（中国放送）勤務

活用に生かすための実践報告

「スポーツアナウンサー」

1 主題の設定

- ・目標をもって努力すること、これはよりよい自分を求めて誰もが行っていることである。よく、オリンピック選手やプロスポーツ選手の努力の様子や生き様が紹介されることがある。その生き様に触れるにより、感動し、自分もがんばろうと元気が出ることは多い。しかし、一流選手であるが故に、それはどこか遠い世界の話、自分とはかけ離れた物語としてとらえられてしまうことがあるのも確かである。
- ・本資料は一人のアナウンサーが、目標をもち、途中くじけそうになりながらも、それに向かって努力していく様子を紹介する。それにより、人の生き方の中で「目標をもち、努力する」ことはとても大切なことであることを伝えるものである。
- ・高学年の児童は、この主題に対して、自分なりの目標がもてる児童、なかなか目標を決めることのできない児童、目標をもつことができても努力に結びつかない児童、努力が長続きしない児童、いくつかの目標をもち、様々な場面で実現しようと努力を繰り返す児童など様々な段階がある。
- ・そこで、この資料を通し、誰もがくじけそうになりながらも、努力を続けたり、目標を立てたりしてがんばっていることを知らせ、児童が自分の可能性を見い出す糸口としたい。

2 指導過程の工夫

- ・導入では、実際の野球の実況を聞くことにより、資料の世界に浸らせるこ

とをねらった。

- ・展開の後段（自己の振り返り）では、児童の日記などを紹介する方法も効果的である。
- ・終末は、身近な人（児童を温かく見守ってくれている方等）のメッセージで締めくくることもできる。

3 発問の工夫

- ・中心発問では、失敗しながらもくじけずに努力した主人公の思いにせまらせたい。
- ・主人公がどんな目標をもったか、どのように努力したかを考えさせることで、主人公に共感させ、自分の生活とつなげて考えられるようにしたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

- ・導入で実際の実況を聞くことで、ラジオでその場の様子を伝えることの難しさを感じていた。
- ・失敗してもくじけずに努力したこと敬意を表していた。
- ・習い事などで目標をもち、努力していることがたくさん出た。

5 実践者からの一言

- ・児童の親しみやすいスポーツに携わる実在の人物の話であり、興味をひきやすい。
- ・大きな失敗をばねに目標をもって努力する姿は児童が共感しやすかった。
- ・いわゆるスーパースターを取り上げた話ではないことで、多くの人がこのように目標をもち、努力をしていることに気付くことができたと思う。

（津田小学校 石川和明）